

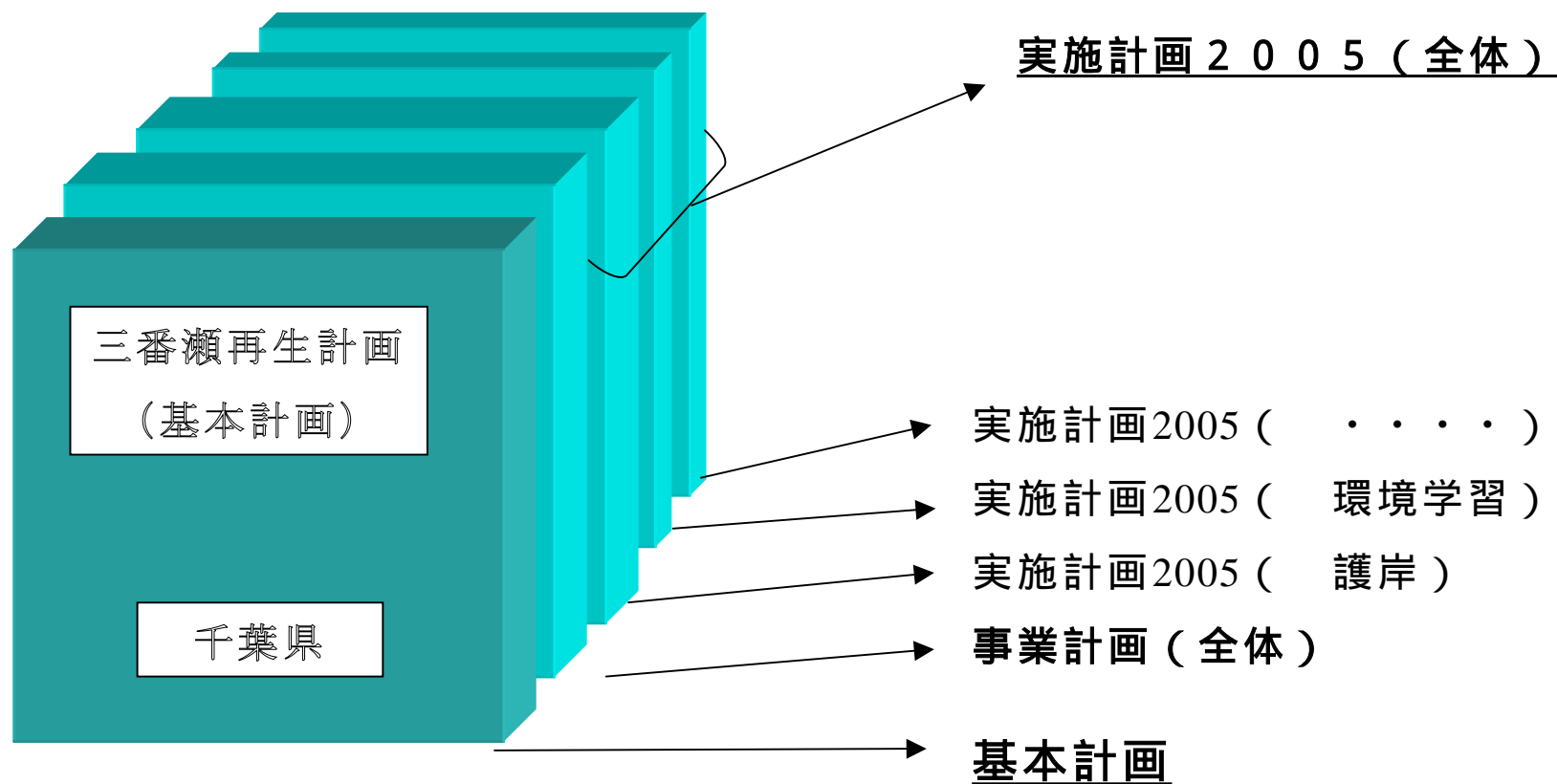
第2回「三番瀬再生会議」

追加・補足・報告資料

平成17年1月26日

千 葉 県

三番瀨再生計畫 (基本計畫+事業計畫 (全体) + 実施計畫)



再生計画のイメージ

海と陸との連続性・護岸の例

項 目	内 容
基本計画	<p>【現状】</p> <p>現在の三番瀬は、海と陸との変化に富む自然なつながりが護岸によって断ち切られています。また、直立護岸の一部には、鋼矢板の腐食、老朽化、地盤沈下が認められます。</p> <p>【課題】</p> <p>このことから、海と陸との自然な連続性を徐々に取り戻し、人々と三番瀬のふれあいを確保してゆくことが重要です。また、安全性が保たれていない護岸については、必要な安全性を早急に確保することが必要です。</p> <p>【方向性】</p> <p>そのため、安全性が保たれていない護岸については、安全かつ生態系に配慮した護岸改修を早期に進めるとともに、海側における潮間帯や砕波帯の検討や陸側における自然再生のための用地を可能な限りの確保、親水スポット等整備により海と陸との連続性の回復を目指します。</p>
個別の事業計画	<p>【中長期の取組み】</p> <p>の護岸については、老朽化していることから、早急に安全性を確保するため、護岸の改修を行います。</p> <p>【事業主体・手段・手法】</p> <p>このため、生態系に配慮した護岸の構造や親水性を確保するための工夫を公開の検討委員会で検討しながら進めます。</p>
個別事業の 実施計画	<p>(Plan)</p> <p>平成 年度には、これまでの環境調査等の を踏まえ、基礎的な調査をするともに、 を決定し、順応的管理のもとで護岸前面の干出域化の検討するに当たっては、公開の検討委員会において、意見を聞いてまとめます。</p> <p>平成 年度に、工事に着手し、平成 年度には、工事を完了する予定です。</p> <p>また、事業実施に伴う環境を継続的に観察・記録し、その結果を科学的に評価します。</p> <p>さらに、 、 ・ ・ ・ の時期に、 、 ・ ・ ・ の項目について、継続的な観察・記録を行います。</p> <p>(予算 千円)</p>
事業の実施	<p>(Do)</p> <p>事業を実施し、事業実施に伴う環境を継続的に観察・記録し、評価する。</p> <p>(Check)</p> <p>継続的に観察・記録した結果及び科学的評価について、三番瀬再生会議に報告する。</p> <p>(Action)</p> <p>三番瀬再生会議からの意見を受け、事業の終了、継続、見直し、中止を決定します。</p>

平成17年度県予算について

平成17年度においては、当初予算は、必要最小限の経費のみを計上した骨格予算となり、6月議会で全体の予算が審議され、平成17年度予算全体が決まる見込みとなっている。

昨日開会した平成17年2月議会に、三番瀬関連県予算の骨格予算といたしまして、

三番瀬再生会議開催費用 130万2千円、

サテライトオフィス運営委託事業 664万1千円、

三番瀬自然環境調査委託事業 456万3千円

総額 1250万6千円を提案したところであります。

スケジュール

2月議会（平成17年1月25日～2月17日） 骨格予算審議・決定

6月議会（平成17年6月～7月頃） 6月補正予算審議・決定

行徳塩性湿地における貧酸素水改善実験について

東京大学 大学院新領域創成科学研究科
環境学専攻 磯部雅彦

(目的) 東京湾・有明海を含む多くの閉鎖性海域において夏季に底層水が貧酸素化し、生物生息に対して深刻な悪影響を与えている。特に東京湾では青潮の発生により、水産生物を含む多くの生物の斃死を招く。貧酸素状態を解消するための方法の中にエアレーションがあるが、これには比較的大口径(ミリオーダー)の気泡を大量に噴出して底層から表層まで水塊全体の溶存酸素濃度を上げようとするものと、小口径(ミクロンオーダー)の気泡を水底付近に噴出することにより底層付近の比較的小規模な範囲で溶存酸素濃度を上げようとするものがある。後者は凹地に形成された貧酸素水の解消等に効果が期待できる。本研究ではこれを取りあげ、微細気泡(マイクロバブル)発生装置を用いて底層付近に酸素を供給するシステムを開発し、その効果の程度や範囲を検証するために小規模な現地検証実験を行うことを目的とする。

(場所) 行徳塩性湿地の南端の暗渠水門の近くにある凹地(添付図1)

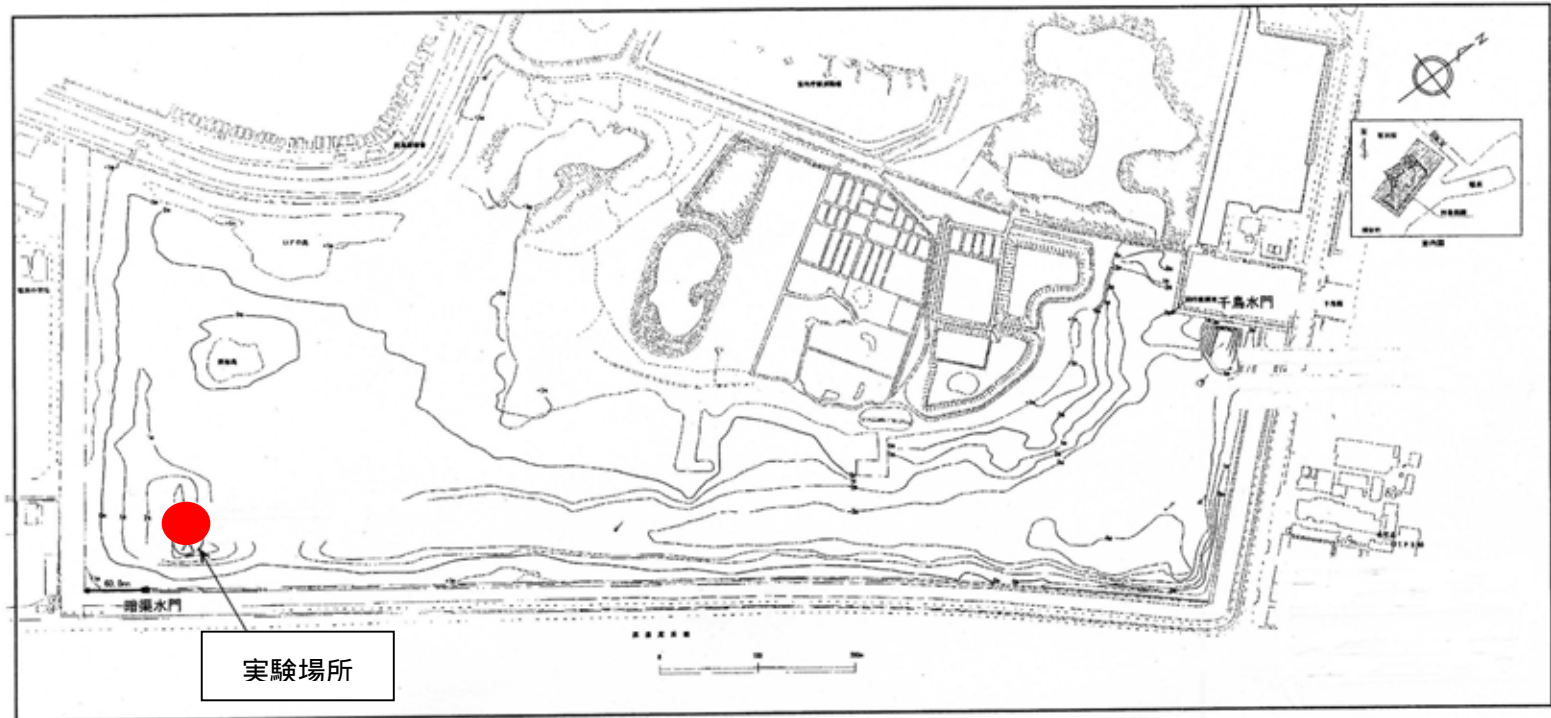
(期間) 2005年4月以降で準備が整い次第簡単な予備実験を行った後で、本実験を6月から9月の間の適当な3ヶ月程度行う。

(実験内容)

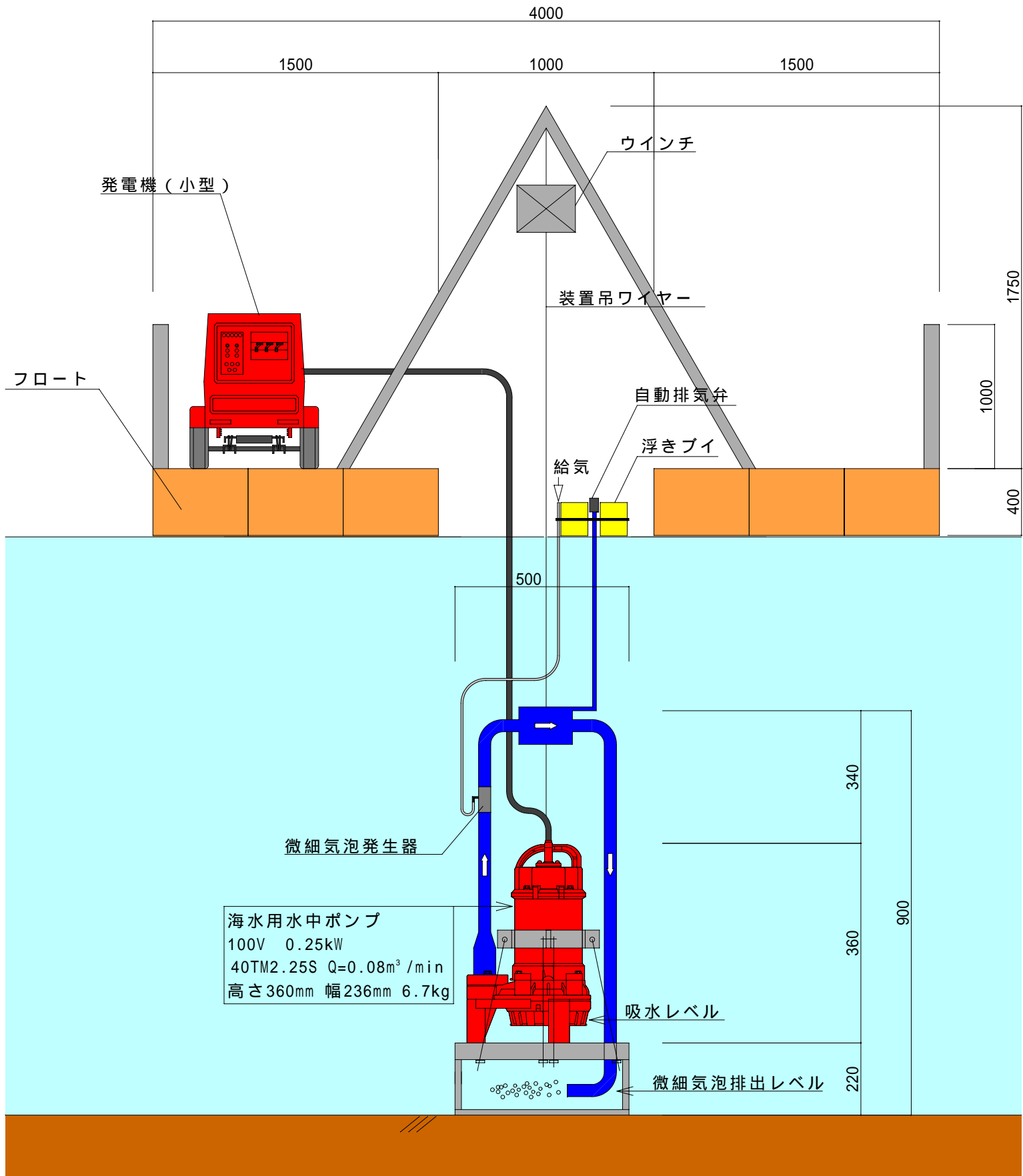
- 1) 添付図2に概念が示されるような微細気泡による酸素供給システムを開発するために、実験室での基礎的実験を行う。これによって、具体的な形状を決定し、現地用システムを試作する。
- 2) 試作システムを用いて現地で予備実験を行う。予備実験では、気泡の発生や酸素供給水の状況のチェック、付近の溶存酸素濃度の分布などを測定する。その結果に基づいて、システムを改良して本システムを製作する。
- 3) 本システムを添付図3の要領で設置して、微細気泡による酸素供給を行い、その効果を調べるための測定を行う。測定項目は、装置付近の溶存酸素濃度、水温、塩分、栄養塩等の水質、流速、および底質と間隙水の水質とする。底質については粒度分布等とともに、キノン分析を用いてバクテリア群の変化も調べる。

(研究体制) 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻と東亜建設工業(株)技術研究所との共同研究として行う。前者は計画・測定・解析等の研究全般の中心となり、後者は主に装置の製作・設置・撤去等を担当する。

添付図1：行徳塩性湿地の平面図

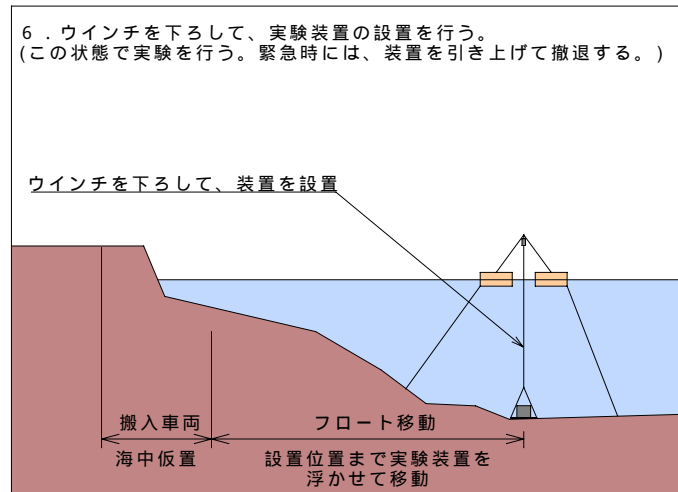
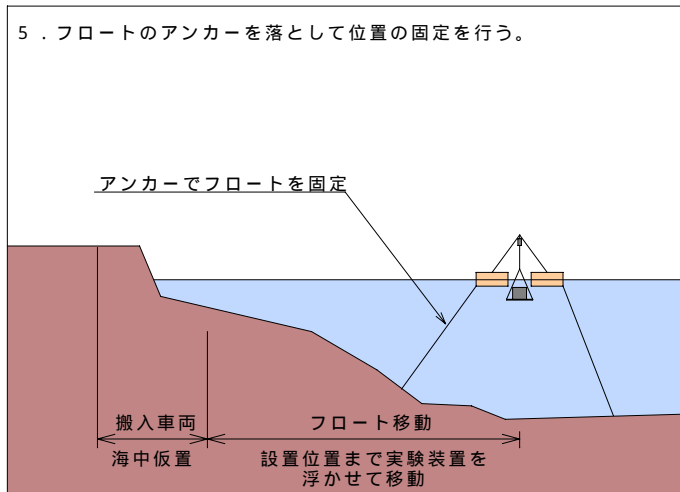
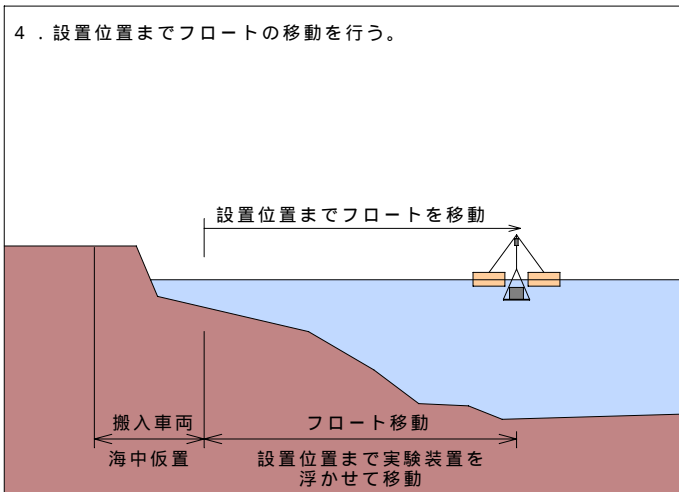
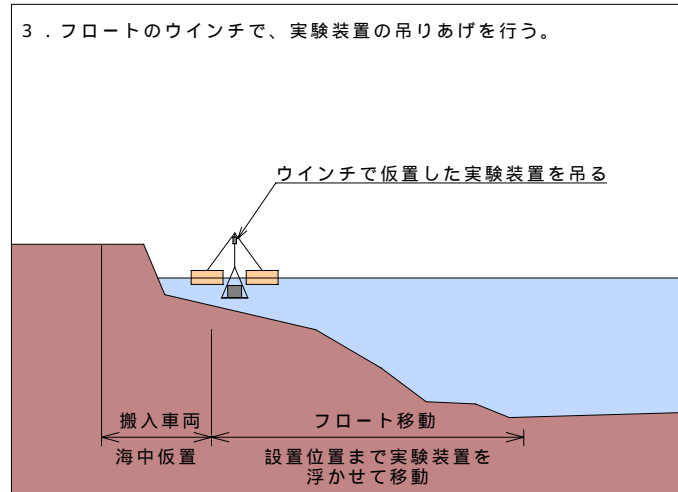
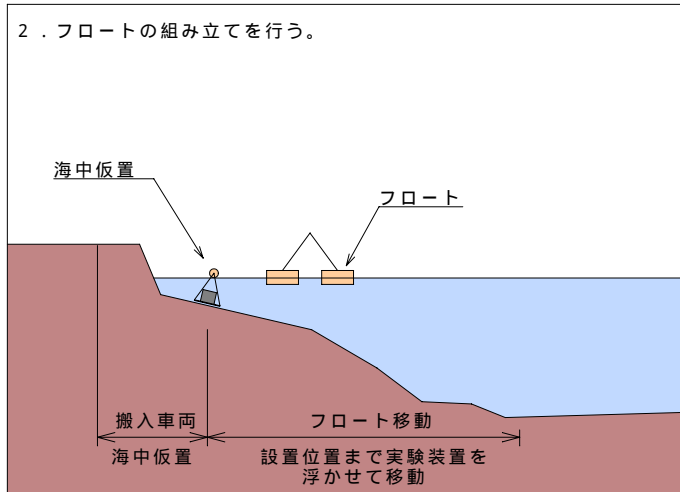
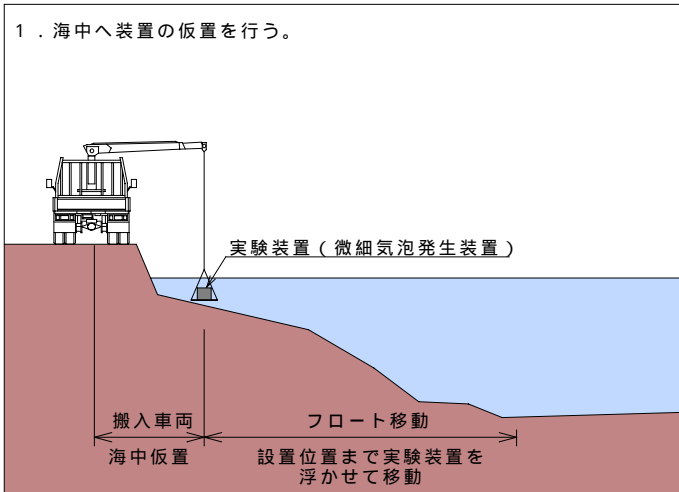


微細気泡発生装置検討図 (単位mm)



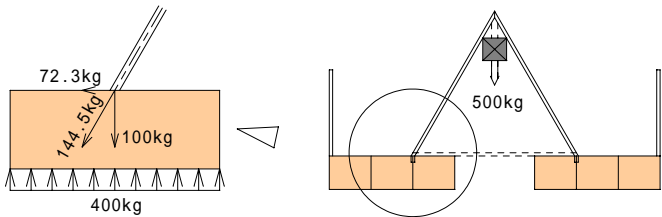
添付図 2 : 微細気泡発生装置検討図

実験装置設置フロー図

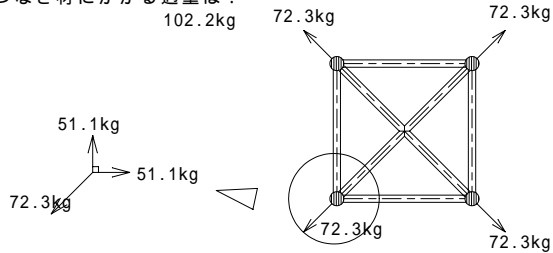


装置過重を500kgと仮定した場合

1本の支柱が必要な支持力100kg
< 4つのフロートの浮力400kg




支柱つなぎ材にかかる過重は？
102.2kg



三番瀬再生会議開催スケジュール(案)

追加資料

平成17年1月26日

	会議開催等	再生計画関係	備考
1月	第2回三番瀬再生会議開催(1月26日) 議題: 1. 三番瀬再生会議の役割等について 2. スケジュールについて ア 個別検討委員会の基本的な考え方について 3. 三番瀬再生会議への報告事項 ア 平成16年度事業について イ 平成17年度事業の進め方について 4 その他		
2月	第3回三番瀬再生会議開催 議題1. 再生計画案(基本計画案)の諮問 2. 年間スケジュール	 基本計画案 ・国との協議 ・地元市との協議 ・漁業関係者との協議	
3月	第4回三番瀬再生会議開催 議題1		
4月			
5月	第5回三番瀬再生会議開催 議題1		
6月			
7月	第6回三番瀬再生会議開催 議題1.		
8月			
9月	第7回三番瀬再生会議開催 議題1.		
10月			
11月	第8回三番瀬再生会議開催 議題1.		
12月			
1月	第9回三番瀬再生会議開催 議題1.		
2月			
3月	第10回三番瀬再生会議開催 議題1.		